

# 岩北ユネスコスクールだより



2014. 11. 25 No. 5



よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する子

富士市立岩松北小学校

## 今日よいいアースへの学び～ESD世界大会より～



ESD世界会議・大会が11月に名古屋・岡山で開催されました。私は、岡山で開催された世界大会（全国大会を含む）に参加しました。会場となった岡山大学はもちろん、駅前や大通りでもイベントが開かれており、ESDへの関心の高さを感じました。参加者は日本国内からはもちろん、世界の様々な国からの出席がありました。名古屋の世界会議には皇太子・皇太子妃も出席されました。

一日を通して、様々な方からお話がありました。その中でも、特に印象に残ったのが、『世界の子ども達で困っている人たちがたくさんいる。少しでも理解してその子ども達の手助けになりましょう。』『互いを理解し、互いを認め合いましょう。違うのは当たり前、共通していることを探しましょう。』『伝統を、文化を、守り伝えていくのは、私たちの使命です。50年後、誰もが過ごしやすい社会をつくるために自分にできることは実行しましょう。』という言葉です。これらのことは何も新しいことを言っているわけではありません。岩松北小でもやっていることなのだと確信しました。大切なことは、将来を見据えて今の自分に何ができるのかを考えていくことなのだと思います。

帰校後、あるクラスで『50年後の岩松北地区はどうなっていると思う』と質問しました。すると、「緑がなくなっているかも。」「住みにくくなっているかも」という言葉が返ってきました。『そうならないためにみんなには何かできることはありますか。』と聞くと、「ゴミ拾いや緑を大切にすること」という頼もしい反応がありました。そこでもう一歩踏み込んで、『ゴミを減らすためにはどうしたらいいかな。』と質問してみました。拾うという考え方からゴミを出さない工夫に視点を当ててみました。今後どのような活動をするのか子どもの姿を見届けたいと思います。将来を見据えて、自分ができることから実践していくことでしょう。

先日、生活科・けやき学習だよりを配布しました。各クラスの素晴らしい実践が子ども達の心に響き、ESDの考え方が根付いていることと思います。活動は違っても、よりよい未来をつくるという目標は一緒です。是非ご家庭で、生活科やけやき学習について話題にしてください。

## 空を見て過去を知る

最近のニュースを見ていると、天体のニュースが多いように感じます。特に彗星に着陸した人工衛星、獅子座・牡牛座流星群はテレビでも報道されていました。4年生では、夏・冬の星座、5年生では、台風・天気、6年生では、月と太陽の学習をします。子ども達は天体にとっても興味があります。



太陽系を除いた一番近い恒星はウォルフ424という星です。一番近いとは言っても光の速さで一年かかる距離にあります。もっとも遠い天体はMACS 0647-JDという星で、なんと132億6400万光離れているようです。今見えている星も実はないかもしれない。つまり、夜に星空を見ることは宇宙の過去を見ることと同じなのです。今光っている星は実はないのかもしれない。そんなことを子ども達に言ってもピンとくる子はそんなにいません。しかし、私たちはその過去を学習しながら未来のことを考えていくことを大切にしたいと思います。あるクラスでは、雁がね堤のことを学習しています。どうして造ったのか、当時の岩松地区の人々の思いを考えることで過去を知り、未来を生きる子ども達がそれを学習している。なんとも素敵な話だと思いませんか。

(担当 加藤 賢一)

